

岐阜大学医学部附属病院 広報誌

うぶね
ubune

Take free
50

2022年7月発行



新病院長インタビュー
岐大病院の
将来ビジョン

- 特集：新手術棟完成
- 新任紹介
- 管理栄養士のけんこう食卓
- 自宅でカンタン！健康体操
- Q&Aコラム ○○って何？

特集 新病院長インタビュー

岐大病院の 将来ビジョン

2022年4月に就任した秋山治彦新病院長に
岐阜大学医学部附属病院が目指す、
今後の将来像についてお聞きました。



岐阜大学医学部附属病院 病院長

秋山 治彦 AKIYAMA HARUHIKO

昭和63年 京都大学医学部卒業
 平成10年 京都大学大学院医学研究科修了
 平成10年 日本学術振興会未来開拓学術研究推進事業
 リサーチアソシエート
 平成11年 テキサス大学MDアンダーソン癌センター
 平成16年 京都大学医学部整形外科助手
 平成19年 京都大学医学部整形外科准教授
 平成24年 京都大学医学部整形外科准教授・副診療科長
 平成25年 岐阜大学大学院医学系研究科整形外科教授
 平成28年 岐阜大学大学院医学系研究科副研究科長(令和3年まで)
 平成28年 岐阜大学医学部附属病院副院長(平成31年まで)
 令和2年 岐阜大学医学部附属病院副院長
 令和4年 東海国立大学機構副理事・岐阜大学医学部附属病院長



2023年1月開設予定の総合患者サポートセンター完成イメージ。
患者さんの総合窓口となり、外来受診や入院支援の充実を図る。

安心・安全な医療の提供と同時に、
「メディカルDX」を加速させ、より一層信頼される大学病院へ。

岐阜大学医学部附属病院は、医師、看護師、メディカルスタッフ、そして事務職員など、2,000人ほどの職員が協力し合い、チーム医療を実践しながら支え合って最高の病院を目指してきました。私は、これまで多くの職員の方で築き上げてきたこの大学病院の風土・文化は、今後も大切に継承していかなければならないと考えています。その上で、岐阜県における地域の中核病院として、岐阜県の患者さんのために全ての病気に対応でき、安全・安心に治療が受けられる大学病院として、より一層信頼していただけるような存在にしていきたい。そのためにも、職員の思いと岐阜県民の皆さんの思いをしっかりと心に刻み込みながら、病院長としての職務に邁進していきたいと思っています。

当院ではがんセンター、呼吸器センター、循環器センターなど、主要な病気に関するセンターを設立し、診療科の枠を超え、メディカルスタッフ、事務職員も含めた集学的治療ができる体制を構築してきました。今後も、主要な疾患に関するセンターをさらに拡充することで、どんな疾患についても、最先端の医療が受けられる体制を整えていきたいと思っています。

患者さんへの対応という点では、2023年1月から「総合患

者サポートセンター」を開設する準備を進めています。これは、いわゆる「ペイシェント・フロー・マネジメント」、入院前から退院後までを見据えた一連のサポートを行うための新たなセンターです。岐阜県下の医療機関では最も広いフロア面積を有し、患者さんに対して個別かつ丁寧な支援を行ったり、手術前の患者さんに解説動画をご覧いただけたりする仕組みづくりを進めています。退院先のサポートについても、総合患者サポートセンターが中心となって、従来以上にきめ細かく対応できる体制を作り上げる計画です。

大学病院には、先進医療と臨床研究を推進し、新たな標準治療を創成する役割があります。そこで、産官学で連携しながら、先端医療臨床研究推進センターの機能の充実、トランスレーショナルリサーチの推進などを図り、新たな医療技術や新薬の開発などを積極的に進めていきます。また、当院では、2年前から名古屋大学と連携して「健康医療データ統合研究教育拠点事業」に取り組んでいます。これは、岐阜大学および名古屋大学の医療情報を、研究ベースにおいて相互に利用できるシステムを構築しようとするもの。これにより、新たな医療技術や新薬を作る際、医療情報をすぐに掴むこと

ができ、臨床研究などをより迅速に進めることが可能になります。また、同じ岐阜医療圏にある医療機関とコンソーシアムを作ることで、互いの患者さんの情報を共有できる体制の構築も進めているところです。こうして大規模なデータベースを作り上げることができれば、新たな技術が開発できた際、すぐに臨床試験で試し、よりスピーディーに標準治療として世の中に普及していくことが可能になります。名古屋大学との連携はすでに半年ほど前から始まっていますので、今後はこのデータベースをうまく活用した臨床研究がより一層広がっていくと思います。

2022年4月に、新たな手術棟が完成しました。以前に比べて手術室が5室増え、そのうち2室がハイブリッド手術室になっています。ハイブリッド手術室には、最新鋭の血管造影設備が備えられており、心臓の血管内治療などにおいて非常に精度が高い手術を実施することができます。また、当院では2台のダヴィンチを保有していますが、新手術棟にはこのダヴィンチによるロボット手術を専用で行うための手術室も新たに設けています。当院では最新鋭のダヴィンチを2台体制で活用できるのが大きな強みです。ロボット支援手術は、当初泌尿器科の手術が中心でしたが、最近では保険適用が徐々に拡大し、産婦人科や消化器外科、呼吸器外科などの手術に対してもロボット支援が広がってきています。そこ

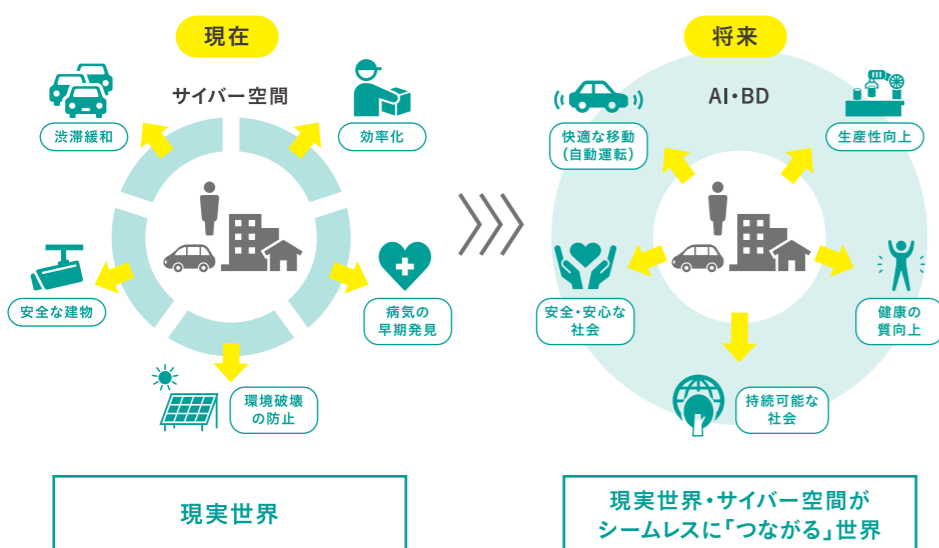
で、当院ではさまざまな患者さんにロボット手術で対応できる充実した環境を整えました。新手術棟のもう一つの特徴が、面積を拡張した「バイオクリーンルーム」です。空気中の微細なちりも除去できる非常に清浄度の高い手術室のことで、これを従来の1.5倍に広くし、整形外科のロボット支援手術などを安全に行えるようにしています。今後はARやVRなどの最新技術も取り入れながら、低侵襲かつ精密な手術を受けられる環境をさらに拡充させていきます。

そのほかにも、先進的な試みとして取り組んでいるのが「再生医療」です。iPS細胞が大きな注目を集めるなど、全国の大学病院でさまざまなプロジェクトが進行する再生医療の分野ですが、岐阜県下ではこれまであまり進んできませんでした。そこで、当院がこの分野に先鞭をつけ、まずは幹細胞の移植せんべんなどから徐々に取り組んでいこうと準備を進めています。具体的には、患者さんご自身の骨髄から採取した幹細胞を移植して下顎を再建する技術や、患者さんの血液から血小板を濃縮して採取し、スポーツなどで傷めた腱や靭帯などの組織を修復させるPRP療法などに取り組んでいきます。

内閣府では科学技術政策として「Society5.0」という新しい社会のあり方を提唱しています。これは、今後の日本が目指すべき未来社会の姿として、「サイバー空間（仮想空間）とフィジカル空間（現実空間）を高度に融合させたシステムによ

P.5につづく▶

DX(デジタルトランスフォーメーション)



IT技術やインフラの発展により、人々の生活がより良いものになること。医療業界においても、AIで医療用画像から情報を収集することで診断をフォローし、医師による見落としリスクの軽減を図るなどの取り組みが期待されています。

岐大病院新体制のキーワード

Key word 1 教育・人材育成

当院において医療人の育成は大きな使命の一つですが、現在、特に力を入れているのが「リカレント教育」です。卒後の医師の教育について、これまでの医師育成推進センターによる細やかな対応に加えて、内視鏡外科手術トレーニングセンターや現在整備中のカダバートレーニングセンターでのトレーニングを、高速インターネットにつないで遠隔地から見学できる体制づくりを進めています。さらに将来的には、AR、VRの技術を用いることで、当院に足を運ぶことなく最先端の医療技術を習得できる仕組みを構築していく考えです。

2024年から始まる「医師の働き方改革」に向け、今年2月から新たに勤怠管理システム「Dr.Joy」の運用を開始しました。人材育成の観点からも、医師の勤務体制や



当直体制の抜本的な見直しは非常に重要であり、現在、医師の労働時間短縮と合わせて、医師の負担を軽減するための「タスクシフティング」も進めています。外来や病棟へのメディカルクラークの雇用や医科医療事務技能認定試験、ホスピタルコンシェルジュ検定試験などの資格取得のサポートを行うほか、看護師への特定行為研修の支援、臨床工学技士への研修サポート、手術室薬剤師の配置、救急救命士の雇用などを計画しています。

Key word 2 研究

岐阜大学医学部および附属病院では、名古屋大学と連携して「健康医療データ統合研究拠点事業」を進めています。この事業により、岐阜大学および名古屋大学の医療情報を、研究ベースにおいて相互に利用できるシステムが構築されています。

近年は、大規模データベースの構築とデータ活用によるさまざまな研究が世界的に展開されており、創薬、臨床試験、地域包括ケア、人材育成、AI開発などのあらゆる分野で、大規模なデータベースが必須となっています。名古屋大学では、愛知県の市町村の医療データベースの統合の試みを進める一方、岐阜大学においても、岐阜医療圏の病院群と連携して岐阜医療圏地域コンソーシアムを立ち上げ、地域一体型の治験や臨床研究の体制



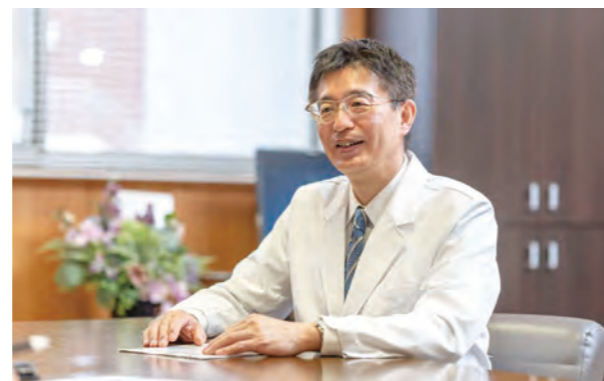
づくりを進めています。将来的には、東海地方全体の医療情報の一元化や、他地方とのデータベース連携による研究開発、名古屋大学の情報・生命医学コンボリューションonグローバルアライアンス卓越大学院(CIBoG)との連携によるビッグデータ解析や橋渡し研究の推進なども期待されています。これにより、地域における予防医療、早期発見、リハビリテーションの充実などを図り、地域の皆さんの健康寿命の延伸に貢献します。

り、経済発展と社会的課題の解決を両立する人間中心の社会」を実現しようとするものです。私たち病院もこうした流れを受け、今後はメディカルデジタルトランスフォーメーションによる「スマートホスピタル」へと進化していく必要があると考えています。スマートホスピタルは、医療サービスの向上、医療従事者の業務効率化、患者さんの利便性の向上などを実現するための近未来型の新しい病院の形です。現在では、スマホ決済の導入や電子カルテの音声入力、ウェアラブル端末を用いた患者さんのバイタル情報のモニタリング、医薬品や診断装置の使用状況の把握など、さまざまな技術が新たに開発されています。そして今後は、VRを用いた患者説明や、ロボットを用いたリハビリテーションなども徐々に実現していくでしょう。当院においても、こうした最先端の技術を取り入れながら、次世代を見据えた新たな病院像を目指していきます。2023年1月に電子カルテの更新を行った後は、オンライン診療の充実、パーソナルヘルスレコードシステムの稼働、AI診断などの開発・導入を計画しています。そして今後は、AIモニター装置やAIでの検査機器管理システムの導入、岐阜大学医学教育開発研究センターと協した学内教育や授業支援ツールの開発などにも積極的に取り組んでいきたいです。

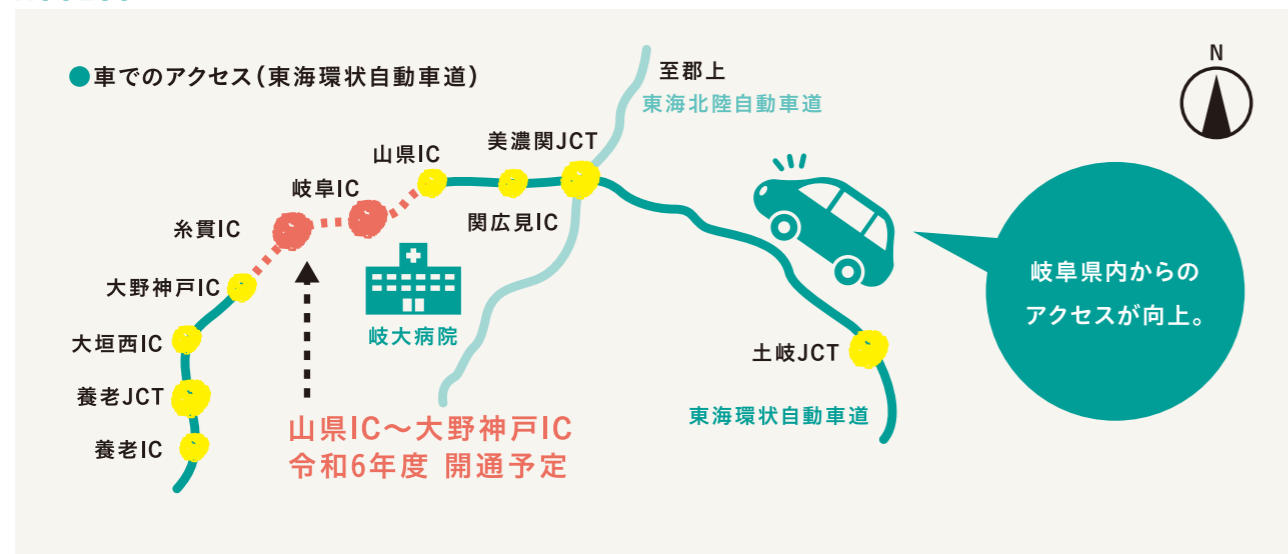
当院では今後の展望として、5つの大きな計画の枠組みのもと、26の病院経営成長戦略推進プロジェクトを掲げています。特定機能病院として、そして地域医療機関との連携中

核病院として、従来のように「医療の最後の砦」として高度急性期医療を提供してだけでなく、国際的にも地域でも活躍できる人材の育成とそのための教育システムの構築、国際医療センターとして海外研修の推進、外国からの患者さんのサポートの充実などにも力を入れていきます。

2024年には、病院の北側に高速道路のインターチェンジが完成する予定です。岐阜大学は、岐阜市のみならず、岐阜県全域からのアクセスが非常に良くなり(下図参照)、他県からの交通の便も飛躍的に向上します。今後も岐阜市などの近隣病院との連携をさらに強固にしながら、岐阜県全域の県民の方々に安心して受診していただけるように努めていきます。そして、全ての病気の標準治療のみならず、岐阜大学医学部附属病院でしか受けられないような先進医療や治験での医療、さらには最先端機器を用いた治療などを幅広く提供できる病院へとますます発展させていきたいと思ひます。



ACCESS



岐大病院新体制のビジョン

Vision 1 新手術棟の完成を機に、さらに高度な医療体制を拡充。



2022年4月に竣工した新手術棟。ハイブリッド手術室や手術支援ロボット「ダヴィンチ」などの設備を備え、より幅広く専門的な手術が可能に。詳しくはP.7より。

Vision 2 2025年に向けての将来ビジョン



当院は、2025年に向けて4つの大きな方針をまとめた「岐阜大学医学部附属病院の将来ビジョン」の実現に向けてさまざまな取り組みを行っています。

特集

新手術棟完成

2022年4月に最先端の設備を備えた新手術棟が完成。
より高度な医療が幅広く提供できる環境が整いました。



写真右から 小川武則、村瀬妙子、長瀬清

患者さんの待機時間を減らし より多くの手術が行える体制を整備

岐阜大学医学部附属病院は、岐阜県における高難度の疾病に対応する病院として、幅広い医療を提供しています。どの診療科においても、岐阜県のみならず、東海地方、さらには日本をリードするような医師が勤務しており、さまざまな検査や薬物療法、放射線治療、リハビリテーションなどの各分野で活躍しています。手術治療もその一つであり、例えば、悪性腫瘍においては、都道府県がん診療連携病院として岐阜県内の進行がんや合併症の多い患者さんの治療を積極的に行っています。

しかしながら、大学病院をはじめとした手術件数の多い医療機関では、どうしても手術の待機期間が数カ月に及んでしまうという問題を抱えています。実際、岐阜大学医学部附属病院においても、がんと診断されてから実際に手術を行うまでに数カ月かかるといった診療科も出ていました。こうした問題を抜

本的に解消するため、私たちが以前から望んでいたのが手術室の増加でした。ただ、既存の手術棟では新たなスペースを確保する余裕がなかったことから、この度、既存の手術棟と併用する形で、新手術棟を設置することにしました。

2022年4月に新手術棟が完成したことで、これまで12室だった手術室が5室増え、全部で17室となりました。既存の手

手術部 部長
小川 武則
おがわ たけのり



手術部 副部長
長瀬 清
ながせ きよし



術室に比べてどれも非常に広く、余裕のあるスペースを確保しています。現在の手術は、顕微鏡、内視鏡、ロボット、外視鏡、ナビゲーション、出血量を減らすエナジーデバイスなど、さまざまな医療機器を必要とします。さらに、大学病院では、複数の診療科による合同手術が数多く行われるのに加え、大学でしか対応できない県内外の患者さんも数多くご紹介いただきます。そのため、新手術棟には、最先端の医療機器を用いることで幅広い手術に対応できる機能を持たせています。

ハイブリッド手術室の導入に加え ロボット手術は充実の2台体制に

新手術棟で新たに導入された代表的な設備が、ハイブリッド手術室とロボット手術の2つです。ハイブリッド手術室とは、手術台に血管造影装置を組み合わせた手術室のこと。これにより、高画像の透視や3D撮影を活用した最先端の医療が提供できるのが大きなメリットです。新手術棟にはこのハイブリッド手術室が2室設けられました。

ハイブリッド手術室が導入されたことで、心臓血管外科においては、大動脈弁狭窄症に対する経カテーテルの大動脈弁置換術、胸腹部大動脈に対するステントグラフト内挿術、下肢ASOに対する経カテーテルの血管形成術、弁膜症に対する人工弁置換術、狭窄症に対する冠動脈バイパス術が行われるなど、最先端の設備を活かした高難度な疾患の治療が幅広く行えるようになりました。

一方、67㎡のゆとりある広さを確保したロボット手術室では、最新鋭の手術支援ロボット「ダヴィンチXi」を2台導入しました。当初、泌尿器科から適用が始まったロボット手術ですが、徐々に保険適用が広がるなかで拡大を続けており、現在で

は、泌尿器科を筆頭に、消化器外科、呼吸器外科、産婦人科などの患者さんに対して1日最大3件のロボット手術を実施。今後さらなる増加が予想されています。

そのほかにも、既存の手術棟に比べて大幅に面積を拡張したバイオクリーンルームを備えているのも特長の一つです。空気中の微細なちりも除去できる非常に清浄度の高い手術室で、これまでの1.5倍に広くすることで、整形外科の手術などをより安全に行える体制を整えました。さらに、最先端の手術内映像システムを採用し、患者さんの安全の確保や、業務の効率化を図ると同時に、災害時の対応などにも備えています。新手術棟の完成を機に、将来のメディカルDX(デジタルトランスフォーメーション)を見据えた先行投資も進めており、今後はARやVRなどの最新技術を取り入れながら、低侵襲かつ精密な手術が受けられる環境をさらに拡充させていきます。

高難度の手術に対応することで 患者さんが安心できる医療を提供

手術部は、執刀する外科医のみならず、麻酔科医師、看護師、臨床工学技士、薬剤師、放射線技師、事務職員といった多くの医療スタッフで運営されています。新手術棟が完成した今年度は、「多職種連携を強化し、安心、安全、良質な手術を提供する」という部の目標を掲げました。今後さらなる手術件数の増加が見込まれますが、その中でも患者さんが安心して手術を受けていただけるように、これまで以上にチームワークを発揮していきたいと考えています。

岐阜大学医学部附属病院では、手術のみならず、内科系、放射線科なども含めた全診療科を通して、高度な医療を提供し続けていますので、安心して受診いただければと思います。

手術部 副部長
村瀬 妙子
むらせ たえこ



TOPIC 1

ハイブリッド手術室

Q 「ハイブリッド手術室」とは？

A 従来の手術台と心・血管X線撮影装置を組み合わせた手術室です。従来は別々の部屋で行われていた手術を一つの部屋で行うことで、より高度な手術が効率的かつ安全にできます。今回、当院には心臓血管外科用と脳神経外科用の2つのハイブリッド手術室が導入されました。これにより「経カテーテル的大動脈弁置換術・TAVI(タビ)」のように、ハイブリッド手術室で行うことが必須条件になっている治療が実施できるようになり、治療の選択肢が広がりました。



Q 患者さんへのメリットは？

A ハイブリッド手術室は、手術中にCT(コンピューター断層撮影)の撮影が可能です。これにより三次元CT画像をもとに、術者が手術部位を正確に確認しながら高度で精密な作業ができます。さらに、放射線の被ばく量や造影剤の使用量を抑えられます。また、麻酔専門医の全身麻酔管理のもと安全に手術を行えるほか、血管損傷などの重大な合併症発症時にもスムーズな外科的修復を実行できます。

Q 国内でのハイブリッド手術室の導入例は？

A ハイブリッド手術室そのものは10年以上前に国内に導入されました。最新のハイブリッド手術室を2つ持つ国立大学病院はほとんどありません。新手術棟が完成して数カ月ですが、既に心臓血管外科用のハイブリッド手術室では大動脈瘤に対するステント治療、脳神経外科用のハイブリッド手術室では脳動脈瘤塞栓術などの血管内治療を行っており、今後もさまざまな治療を導入していく予定です。

ハイブリッド手術室で
TAVIなど対応可



どい きよし
副院長 土井 潔

新しくハイブリッド手術室ができたことで、これまで別々の場所で行っていた手術と撮影が同じ場所で行えるように。より安全で効率的な手術が可能となり、対応できる治療法の幅も確実に広がりました。

TOPIC 2

ダヴィンチ

Q 「ダヴィンチ」とは？

A 世界で最も普及している手術支援ロボットです。低侵襲技術を用いて複雑な手術を可能にすることを目的に開発されました。内視鏡、^{かんし}鉗子、メスなどを装着したロボットを術者が3Dモニターを見ながら操作して手術を行います。ロボットが自動的に手術をするといったイメージを持つ患者さんもありますが、あくまで操作は医師が行います。これまで保険適用外だった手術についても保険適用が拡大されており、日本国内での導入事例や手術件数も増加傾向にあります。



Q 患者さんへのメリットは？

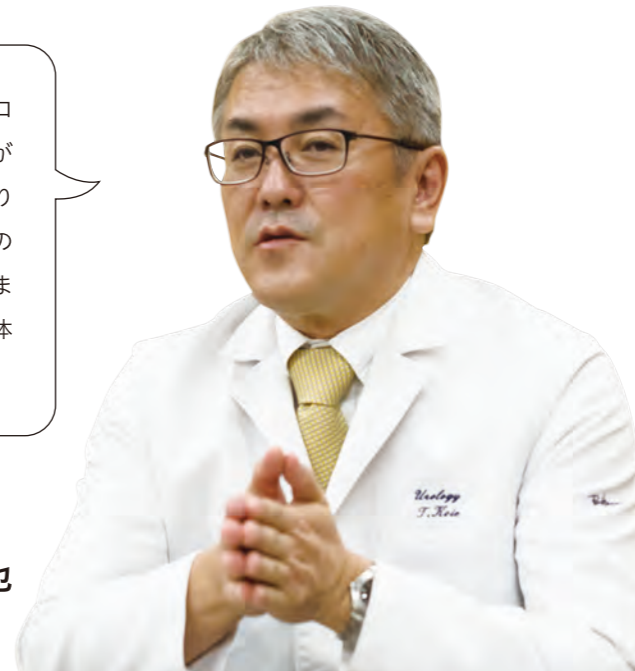
A 傷口が小さく、出血が少ないため、術後の回復が比較的早いことが最も大きなメリットです。術者にとっては、3Dモニターによって肉眼の10~15倍の拡大視野で術部を見ることで、より細かく組織や血管が認識できます。また、ロボットのアームは人の手首や腕よりも大きく曲がって回転するため、人体の可動域を越えた手術操作が可能です。人体よりも繊細で緻密な手術操作によって、患者さんへの負担が少なく済みます。

Q 岐阜大学医学部附属病院での手術例・実績は？

A 当院は、泌尿器科、消化器外科、呼吸器外科、婦人科手術にロボット手術を積極的に導入しています。これまで前立腺手術は約300例、腎部分切除術を50例、膀胱全摘除術は70例程度行っています。また、年間30例以上の患者さんに膀胱の手術を行っていますが、これは全国では第3位、大学病院の中では日本一の症例数です。当院はロボット手術の豊富な実績がありますので、安心して相談いただければと思います。

岐阜大学医学部附属病院はロボット手術経験豊富な医師が多く、高度な知識と技術があります。より再現性の高い術式の確立や人材育成に注力し、さまざまなケースに対応できる体制を構築していきたいです。

こいえ たくや
副院長 古家 琢也



最新のダヴィンチを導入し
高度な医療体制を構築

新任
紹介

岐阜大学大学院医学系研究科
皮膚科学 教授

いわた ひろあき
岩田 浩明

2022年3月、教授に就任。
岐阜大学医学部附属病院皮膚科および
大学院医学系研究科において
治療と研究、人材育成に尽力します。



IWATA
HIROAKI

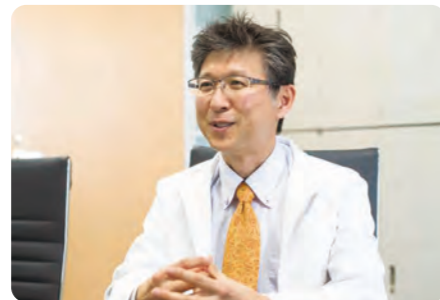
大学病院の使命・役割を果たしていけるよう
診療・研究・教育に取り組んでいきたい。

身近に薬剤師など医療関係者が多かったこともあり、自然と医師を志しました。皮膚科を選んだのは、大学2年生の時に解剖学の講義で電子顕微鏡を使った実験の発表があり、そこで担当の先生から高評価を受け、「もしかしたらこの領域が自分に向いていて、得意なことで人を助けられるかもしれない」と思ったのがきっかけです。岐阜大学医学部附属病院には12年ぶりに戻り、落ち着いた雰囲気の中で大学附属病院としての務めを果たすべく、診療と研究、人材育成に当たっています。

皮膚科では、感染症や免疫疾患、悪性腫瘍など、幅広いトラブルに対応できる体制が整っています。私が専門としているのは水疱症。水疱症は、先天的な遺伝性疾患と自己免疫疾患の2パターンに大別され、特に先天性のものは治療が難しく、死に至るケースもあります。対して自己免疫疾患は、体内に入ってきた異物を認識し、攻

撃して排除する「免疫」がうまく機能しなくなる病気。本来の免疫機能に反し、全く無害な細胞や組織を攻撃して皮膚に水疱（みずぶくれ）ができてしまいます。根治が難しく、解明されていない部分が多い病気ですが、患者さんの悩みや苦しみを軽減できるよう粘り強く努めます。

また、どんな病気も早期発見が大事だと近年改めて感じています。例えば、皮膚の病気から内臓の疾患が見つかることもありますので、少しでも体の不調を感じたらまずは身近なかかりつけ医の方へご相談しましょう。



PROFILE
プロフィール

- 2006年
岐阜大学大学院医学系研究科 助手
- 2007年
岐阜大学大学院医学系研究科 助教
- 2009年
岐阜大学医学部附属病院 講師
- 2014年
北海道大学医学系研究科
- 2015年
北海道大学病院 特任助教
- 2016年
北海道大学医学研究科 特任助教
- 2017年
北海道大学病院 助教
- 2020年
北海道大学病院 講師
- 2022年
岐阜大学大学院医学系研究科 教授

- 担当**
自己免疫性水疱症、皮膚科一般
- 専門医等**
日本皮膚科学会認定専門医

2022年2月4日(金)

公益財団法人日本医療機能評価機構による
病院機能評価認定を受けました

病院機能評価とは、医療機関が提供するさまざまな医療サービスが、患者さんの望んでいる内容と質で提供されているか、診療活動の中で発生する問題点をきちんと改善できているかなどの病院の現状と問題点を明確にするため、第三者機関が評価を行い、一定の水準を満たした病院に対して認定証を発行するものです。当院は、今後も「あなたとの対話が創る信頼と安心の病院」の理念のもと、さらに医療の安全確保と質の向上を図りながら、地域医療に貢献すべく努力してまいります。



2022年4月4日(月)

看護師特定行為研修(第3期)
開講式を開催しました

第3期生として看護師12名が看護師特定行為研修開講式に臨みました。特定行為とは、医師の判断を待つことなく、特定行為研修を修了した看護師の判断で、医師の手順書により一定の診療補助を実践することです。当院は、令和2021年4月から、特定行為研修を実施する研修機関に指定されています。研修生代表からは「研修を通して、実践的な理解力・思考力・技術の向上を図り、チーム医療の一員として患者に最善の医療と看護を提供していく」と抱負が述べられました。当院は今後も社会に貢献できる自律した看護師を育成してまいります。



2022年4月19日(火)

救命救急センターの充実度評価において「S評価」を取得しました

厚生労働省から公表された「救命救急センターの充実度評価」において、当院の高度救命救急センターが4年連続で「S評価」を取得しました。岐阜県下の救命救急センターにおいて「S評価」を取得したのは当院のみとなります。年々「S評価」に対する評価基準が厳しくなっている中、「S評価」が取得できたことは、施設面はもちろんのこと、当院の高度救命救急センターが、地域の中で最後の砦として周辺の病院群と連携を持ちながら高度な医療を展開してきたことが評価されたものと考えています。



管理栄養士の けんこう 食卓

岐阜大学医学部附属病院の管理栄養士が
おすすめする栄養レシピをご紹介します。

Point

栄養のポイント

エビや鮭などに豊富に含まれる赤い色素**アスタキサンチン**は、老化の原因となる活性酸素を除去する抗酸化作用が非常に高く、がんや認知症の予防が期待される成分です。また、エビにはコラーゲンの代謝を促し、皮膚や粘膜を新しく作り替える働きがある**亜鉛**も多く含まれています。味覚を感じるのは、舌の表面にある**味蕾**という小さな器官です。味蕾の中には約1カ月ごとに生まれ変わる**味細胞**という味覚センサーがあり、その味細胞の再生には亜鉛が必須です。

エネルギー
175 kcal
(1人分)



栄養成分(1人分)
たんぱく質:15.0g
脂質:7.2g
炭水化物:12.8g
食塩相当量:2.1g

スパイスが食欲をそそる夏レシピ。
味覚障害のあるがん患者さんにもおすすめ！

にしむら かよこ
管理栄養士 西村 佳代子さん

●材料(2人分)

- | | |
|--------------------------|-----------------------|
| エビ(ブラックタイガー)..... 8尾 | マッシュルーム..... 90g |
| プレーンヨーグルト...45g(大さじ3) | オリーブオイル.....12g(大さじ1) |
| カレー粉..... 6g(大さじ1) | ペビーリーフ..... 10g |
| 玉ねぎすりおろし... 50g(中1/4個) | レモン..... 25g |
| ケチャップ..... 18g(大さじ1) | パセリ..... 少々 |
| にんにくチューブ..... 0.9g(2cm程) | |
| 塩..... 3g(小さじ1/2) | |

●作り方

- エビは殻をむき、背ワタを除いて水洗いし、キッチンペーパーで水分を取り除く。
- ①を混ぜたタレと②をボウルに入れ、30分漬ける。
- ②とカットしたマッシュルームを、油をひいたフライパンに入れ、2分ほど加熱する。
- フライパンに蓋をして、余熱で5分火を通したらできあがり。

味が感じにくい
場合

- 香辛料や香味野菜を使い、味付けをはっきりさせる。
- だしのうま味を利用して、風味や深みを加える。
- 料理の温度を人肌程度にする。



彩りにゆうめん

食欲不振のがん患者さんの
ための食事の工夫。

管理栄養士
なかしま さとみ
中島 里実さん

コチラからは
レシピは



自宅で
カンタン!

健康体操

今回のテーマ

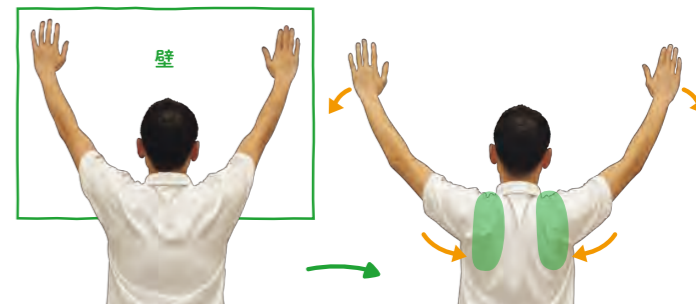
肩甲骨の可動域を広げる体操

人間の腕の骨は背中にある肩甲骨とつながっています。肩の運動は、腕の骨と肩甲骨が運動して行われるため、どちらかの骨の可動域が狭くなると、姿勢の乱れが生じたり、肩の凝りやしびれなどの不調を引き起こしたりします。今回は、そんな肩の運動に重要な役割を持っている肩甲骨の可動域を広げる体操を紹介します。

● 目的としている筋肉 → 運動の方向

肩甲骨の内側の筋肉(僧帽筋)の運動

- 壁に手を着き両手を挙げてバンザイの姿勢をつくりまします。
- 背中をすくめるよう意識して壁から手を離します。
- もう一度壁に手を着きます。
- ②と③を10回行ったら一度腕を降ろしましょう。



10回×3セット

教えてくれたのは

ながた としつぐ
永田 敏貢さん
理学療法士

運動例

運動とストレッチを交互に繰り返していただく効果的です。筋肉の中に溜まった疲労物質が排出され、運動後の筋肉痛が起こりにくくなります。

肩甲骨の内側の筋肉(僧帽筋)のストレッチ



- 腕を前方へまわし、左手で右の肘あたりをつかんで左斜め下の方へ引きまします。
- 顔は右を向きまします。
- 右の肩甲骨の内側の張りを感じたらゆっくり10秒キープしまします。
- 左右交代して①～③を繰り返しまします。背中の肩甲骨の内側が伸びていることを感じながら行っていただくより効果的です。

左右10回×3セット

● 痛みなどがあればすぐに運動を中止し、医師や理学療法士に相談しましましょう。

Q&A コラム 〇〇って何?

今回の疑問は...

Q 輸血ってどんな時に行うの?

A 病気によって血液が作れない場合や
出血によって血液を失ってしまった時に輸血しまします。



なかむら のぶひこ
中村 信彦先生
輸血部副部長 医師

しみず まさひと
清水 雅仁先生
輸血部長、消化器内科・血液内科長

私たちの血液の中には、赤血球や血小板などの血球や、出血を止めるための凝固因子が含まれています。血液の病気や抗がん剤などの影響で血液が作れなくなったり、大量に出血してしまったりすると、息切れや動悸などの貧血症状が起こり、血が止まりにくくなります。輸血を行うことで、足りなくなった血液の成分を補充して、命の危険を回避することができますが、アレルギーなどの副作用を伴う

ことがありますので、輸血を受ける前に必ず医療スタッフから説明を受けてください。輸血を受ける前には、血液型などの検査を受けていただき、輸血中にアレルギーなどの副作用が起こらないか確認するため、定期的に血圧や体温を測定しまします。血液製剤は、献血で集められた血液から作られますが、献血の際には問診や感染症の検査などを行い、安全性は日々向上してまします。

新型コロナウイルス 感染拡大防止に関するご案内

COVID-19 Measures

患者さんへご協力をお願い



マスク着用



手洗い・手指の
アルコール消毒



入院患者さんへの
面会禁止

本院の取り組み



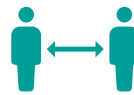
適切な空調管理
による換気



サーモグラフィー
による検温の実施



院内各所の消毒



人との距離
(フィジカル・ディスタンス)
確保



スタッフの
マスク着用

交通アクセス

自家用車でお越しの方は、外来患者駐車場が約600台ありますのでご利用ください。(24時間利用可)
※大学病院前交差点よりご来院ください。※鉄道を利用する方は、駅からはバスまたはタクシーでご来院ください。

病院へのアクセス

●鉄道

【JR】………東海道本線「岐阜駅」で下車
【名古屋鉄道】……名鉄本線「名鉄岐阜駅」で下車

●バス

JR岐阜 名鉄岐阜	岐阜大学・病院線 約30分	岐阜 大学病院 下車 料金 【330円】
	直行便清流ライナー 約25分	
	岐南町線 約40分	

駐車整理料金

区分	駐車時間(入構時間)による料金				備考
	30分 まで	60分 まで	60分～ 90分	90分～24時間	
外来患者	無料			100円	加算金額 500円/24時間
・入院日当日の患者及び その付添者 ・退院当日に来院した その付添者 ※入院期間中継続駐車している 場合の退院日は含まない。	無料			100円	※入院期間 中の駐車は 料金が発生 しますので 遠慮くださ い。
一般外来者 ※面会・お見舞い 他	無料	200円		加算金額 100円/1時間 (上限500円/24時間)	加算金額 500円/24時間

- 認証機設置場所 / 【平日(8:30～17:00)】1階会計窓口、入院センター、退院窓口、【その他の時間】1階夜間受付
- 事前精算機設置場所 / 1階エントランスホール、1階時間外出入口

読者アンケートご協力をお願い

よりよい誌面作りのためアンケートを実施しています。アンケートハガキにてご回答いただいた皆さまの中から、抽選で10名様に当院の取り組みや各診療科の特徴をまとめた『岐阜大学医学部附属病院 ここがすごい。(改定第2版)』を進呈いたします。プレゼントをご希望の方は、アンケートハガキにお名前、ご住所、電話番号をご記入ください。

プレゼント応募締切

令和4年10月31日(月)必着

※当選者の発表は、賞品の発送をもって代えさせていただきます。

